

- 14) 相見満 (1996) 学名の話(28) ドメイン 古細菌 Domain Archaea. モンキー 270,271:9-12.
- 15) 高井正成 (1996) ヒトが座るといふこと. AXIS 66:52-55.
- 16) 内田亮子 (1996) 種内変異からみた大型類人猿の進化. 科学 66(6):419-427.
- 17) 木下實 (1996) ニホンザルの四季 —志賀高原の冬—. モンキー 267:24.

#### 学会発表等

##### —英文—

- 1) Aimi, M.(1996) Deployment of *Presbytis* in Sumatera, Indonesia. Intl. Symp. Evol. Asi. Prim. (Aug. 1996, Inuyama) Abstracts p.44.

##### —和文—

- 1) 茂原信生 (1996) 霊長類の進化—ヒトへの6500万年. 豊橋市立自然史博物館「大進化」(講演)
- 2) 茂原信生 (1996) 日本人の起源—信濃に稲作を伝えた人々. 長野県農業大学校 (講演)
- 3) 岡田成賛・諏訪文彦・茂原信生・毛利俊雄 (1997) ニホンザル嗅覚器の微細血管構築. 第102回日本解剖学会総会 (名古屋)
- 4) 相見満 (1996) コノハザルのスマトラでの分布の特徴. 第12回日本霊長類学会大会 (1996年6月、大阪) 霊長類研究 12(3):272.
- 5) 高井正成・瀬戸口烈司 (1996) 広鼻猿類の起源と進化: 最近の諸分野の成果による系統分類の現状. 第12回日本霊長類学会大会 (1996年6月、大阪). 霊長類研究 12(3):270.
- 6) 高井正成 (1997) 形態から見た霊長類の進化. 第102回解剖学会分科会「第9回形態科学研究会」
- 7) 内田亮子 (1996) 顎と歯はどこまで食性を語るか? 第50回日本人類学会・民族学会連合大会、第24回キネシオロジー分科会大会 (第36回シンポジウム)
- 8) 内田亮子 (1997) ヒトの進化の最近の話題. 第102回解剖学会分科会「第9回形態科学研究会」

## 社会生態研究部門

### 生態機構分野

杉山幸丸・森 明雄・山極壽一・松村秀一

#### 研究概要

A) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極壽一・Kanyunyi A. Basabose<sup>\*)</sup>  
Michael A. Huffman<sup>\*)</sup>・山越 言<sup>\*)</sup>  
竹元博幸<sup>\*)</sup>・松原 幹<sup>\*)</sup>

全頭個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国ボソウの野生チンパンジーについては、野外実験も含めた道具使用行動の詳細な観察とVTR記録の分析・整理を進め、その発達と伝播の分析をおこなった。道具使用行動は、主要な果実が不足する季節によく採食される3種の「かなめの食物」のうち2種に用いられており、チンパンジーの生存が道具に大きく依存していることが示唆された。

以前より調査を継続しているザイール国カフジ・ピエガ国立公園では、ゴリラとチンパンジーの年間にわたる食性、利用域の変化を分析し、平行して継続観察している植物のフェノロジーに関する資料と比較して、両種類人猿が互いに異なる採食戦略を用いて採食競争を抑えていることを明らかにした。また、ウガンダ国のプウィンディ国立公園、ブドンゴ保護区、タンザニアのマハレ国立公園やゴンベ国立公園で両種類人猿の生態調査をおこない、類人猿が用いていると考えられる菓草の薬理効果や摂取様式を比較している。

B) ヒヒ類の研究

森 明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標にして、エチオピア南部アルシ州のガラダヒヒのポピュレーションの調査を行っている。昨年度から引き続き8ヶ月の継続調査を行いユニット構成の季節変化を調べた。乾期の厳しくなる時期とそれに引き継ぐ小雨期の開始で、グループの遊動域が大きくなるとともに、その構成はかなり激しく変化することがわかった。これは、これまでセミエン国立公園でえられていた、安定したユニット構成とはかなり異なる。また、各ユニットのホームレンジ利用とユニット間の交渉に関わるデ

ータを集めた。新たに、サウジアラビアのマントヒヒの予察を行った。

#### C) スラウェシマカクの研究

松村秀一・室山泰之<sup>2)</sup>・岡本暁子<sup>1)</sup>

マカクの社会行動の進化に関する比較研究の一環として、インドネシア・スラウェシ島に生息するムーアモンキーの野外研究を続けている。今年度は、集団構成メンバーの空間的近接やオスのラウドコール等に関する資料を重点的に収集し、成果の一部を発表した。さらに、スラウェシマカクとの比較を念頭に、カリマンタン（ボルネオ島）に生息するブタオザルについての野外調査をおこなった。

その他、飼育下のトンケアンマカクを対象とした音声及び社会交渉の観察資料を分析した。

#### D) ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一  
Vanessa J. Hayes<sup>3)</sup>・田中伊知郎<sup>2)</sup>  
室山泰之<sup>2)</sup>・栗田博之<sup>1)</sup>・松原 幹<sup>1)</sup>  
早川祥子<sup>1)</sup>

ニホンザル個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、大分県高崎山、宮崎県幸島、長野県地獄谷、鹿児島県屋久島の餌づけ群および自然群と、犬山市大平山の放飼場群を対象に研究を進めてきた。食物の時間的、空間的分散の変化のもとで性、年齢、社会的地位の相違により採食行動にあらわれる差の把握につとめ、また、栄養量測定に基づく摂取栄養量の把握と、それらと繁殖成功度との関係を検討した。高崎山では死亡率や攻撃行動の性差や年変動を分析し、地獄谷ではグルーミング時のシラミ卵処理技術の社会的伝達過程を追跡調査した。幸島では、採食速度の時間的変化の解析と性成熟の遅滞現象に焦点を置き、それらに関わるデータの収集と分析を試みた。屋久島では、群れの成員の採食同調を植物性食物のフェノロジー、密度、パッチサイズとの関連から調査した。また、交尾期におけるメスの交尾相手の選択と社会関係の変化、発情の有無や交尾相手との社会関係による採食戦略の変化についても検討した。

#### 論文

—英文—

- 1) Basabose, K. & Yamagiwa, J. (1997) Predation on mammals by chimpanzees in the montane forest of Kahuzi, Zaire. *Primates* 38:45-55.
- 2) Huffman, M. A., Page, J. E., Sukhdeo, M. V. K., Gotoh, S., Kalunde, M. S., Chandrasiri, & Towers, G. H. N. (1996) Leaf-swallowing by chimpanzees, a behavioral adaptation for the control of strongyle nematode infections. *Int. J. Primatol.* 72(4):475-503.
- 3) Huffman, M. A. (1996) Acquisition of innovative cultural behaviors in non-human primates: A case study of stone handling, a socially transmitted behavior in Japanese macaques. In: *Social Learning in Animals: The Roots of Culture.* (eds.) B. Galef, Jr. & C. Heyes. Academic Press, Orlando, pp.267-289.
- 4) Huffman, M. A., Koshimizu, K., & Ohgashi, H. (1996) Ethnobotany and Zoopharmacognosy of *Vernonia amygdalina* (Del.). A medicinal plant used by humans and wild chimpanzee. In: D.J.N.Hind (Editor-in-Chief). *Proceedings of the Kew International Compositae Congress, 1994. Vol.2. Biology & Utilization* (vol. eds. P.Calligari & D.J.N.Hind), Royal Botanical Gardens Kew, pp.351-360.
- 5) Iwamoto, T., Mori, A., Kawal, M. & Bekele, A. (1996) Anti-predator behavior of gelada baboons. *Primates* 37(4):389-397.
- 6) Mahaney, C. W., Hancock, R. G. V., Aufreiter, S., & Huffman, M. A. (1996) Geochemistry and clay minerology of termite mound soil and a possible role of geophagy in chimpanzees of the Mahale Mountains, Tanzania. *Primates* 37:121-134.

1) 大学院生 2) COE研究員 3) 招へい外国人学者

- 7) Mori, A., Iwamoto, T., & Bekele, A. (1996) A case of Infanticide in a recently found gelada populations in Arsi, Ethiopia. *Primates* 38(1):79-88.
- 8) Yamagiwa, J., Maruhashi, T., Yumoto, T. & Mwanza, N. (1996) Dietary and ranging overlap in sympatric gorillas and chimpanzees in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. In: W.C.McGrew, L.F.Marchant & T.Nishida (eds.), *Great Ape Societies*, Cambridge University Press, Cambridge, pp.82-98.
- 9) Yamagiwa, J., Angoue-Ovono, S. & Kasisi, R. (1996) Densities of ape's food trees and primates in the Petit Loango Reserve, Gabon. *Afr. St. Monogr.* 16(4):181-193.
- 10) Yamagiwa, J., Kaleme, K., Mwangi, M. & Basabose, K. (1996) Food density and ranging patterns of gorillas and chimpanzees in the Kahuzi-Biega National Park, Zaire. *Tropics* 6:65-77.

## 総説

### -英文-

- 1) Ohgashi, H., Huffman, M. A., Koshimizu, K. (1996) Chemical Ecology of the Medicinal Use of *Vernonia amygdalina* by Chimpanzees. *J. Afr. St.* 48:51-62.

### -和文-

- 1) 杉山幸丸・相見満・斉藤千映美・室山泰之・松村秀一・浜井美弥 (1996) 「サル百科」、データハウス、東京。
- 2) 山極寿一 (1996) 親ばなれ・子ばなれの動物行動学. *児童心理* 662:987-992.
- 3) 山極寿一 (1996) 食物をめぐる競合と人類の進化: ゴリラとチンパンジーの食性の比較から. *日本咀嚼学会誌* 6(1):39-49.
- 4) 山極寿一 (1996) 食行為の社会化と人類の進化. *Ajico News & Information* 184:9-16.

## 報告・その他

### -英文-

- 1) Yamagiwa, J. (1997) Should we consider the translocation of gorilla populations? *Gorilla J.* 13:21-22.

### -和文-

- 1) 松村秀一 (1996) : 霊長類における優劣関係の進化. *日本動物行動学会ニュースレター* 28:20-21.
- 2) 杉山幸丸 (1996) 「アフリカは立ち上がるか」、はる書房、東京。
- 3) 山極寿一 (1996) 「ゴリラの森に暮らす: アフリカの豊かな自然と知恵」. NTT出版.
- 4) 山極寿一 (1996) なぜ異国の女性が美人に見えるのか: 旅の起源をめぐる霊長類学的考察. *大航海* 11:66-72.
- 5) 山極寿一 (1996) エコ・ツーリズムへ: 自然との共生を求めて. 山下晋司編「観光人類学」、新曜社、pp.197-205.
- 6) 山極寿一 (1996) 野生ゴリラの生態と保護. *どうぶつと動物園* 557:264-267.
- 7) 山極寿一 (1996) : 類人猿のふるさと: カフジ・ピエガ国立公園 (ザイール). *ユネスコ* 1031:15.

## 書評

### -英文-

- 1) Huffman, M. A. (1996) Comments on Lisa Rose and Fiona Marshall: Meat eating, hominid sociality, and home bases revisited. *Cur. Anthropol.* 37(2):325.
- 2) Huffman, M. A. (1996) Sexual Attraction and Childhood Association: A Chinese Brief for Edward Westermarck. A.P.Wolf, 1995, Stanford Univ. Press, Stanford. *Primates* 37(3):333-334.
- 3) Huffman, M. A. (1996) The Neglected Ape. Ronald D. Nadler, Birute F. M. Galdikas, Lori K. Sheeran, Norm Rosen (eds.), Plenum Press, New York and London, 1995, 300pp. *Primates* 37(4):467.

—和文—

- 1) 田中伊知郎 (1997) ウィリアム・C・マックグルー著、西田利貞監訳「文化の起源をさぐる—チンパンジーの物質文化—」日経サイエンス 304:142-143.

#### 学会発表

—英文—

- 1) Basabose, K. & Yamagiwa, J. (1996) Ranging and diet of mountain chimpanzees. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.046.
- 2) Huffman, M. A., Page, J. E., Ohigashi, H., & Gotoh, S. (1996) Leaf-swallowing by chimpanzees for the control of strongyle nematode infections: Behavioral, chemical and parasitological evidence. XVIth Congr. Intl. Primatol. Soc. (Aug.1996, Madison, USA) Abstracts no.566.
- 3) Huffman, M. A. (1996) Recent Trends in Chimpanzee Medicinal Plant Use Research: Primate Behavioral Strategies for the Control of Parasite Infection and Health Maintenance, NSF Research Training Workshop "Parasites and Behavior" (22-28, March, 1996, Univ. California-Davis).
- 4) Huffman, M. A. (1997) An internship with wild chimpanzees. Ancient wisdom, a modern paradigm for tropical medicine? Univ. Alberta, Frucht Memorial Lecture, keynote speaker (5, February, 1997: Department of Anthropology, Edmonton).
- 5) Matsumura, S., Okamoto, K. (1996) Spatial proximity among group members of wild moor macaques. Intl. Symp. Evol. Asi. Prim. (Aug. 1996, Inuyama). Abstracts p.46.
- 6) Okamoto, K., Matsumura, S. (1996) When do male moor macaques emit loud calls? Intl. Symp. Evol. Asian primates (Aug.1996, Inuyama). Abstracts p 45.
- 7) Yamagiwa, J., Basabose, K. & Kaleme, K. (1996) Ranging and frugivory of eastern lowland gorillas in the Kahuzi-Biega National Park, Zaire. XVIth Congr. Intl.

Primatol. Soc. (Aug. 1996, Madison, USA). Abstracts no.045.

—和文—

- 1) 田中伊知郎 (1996) ニホンザルのシラミ卵処理において、技術置換の負担は行動の社会的伝達を阻害したのか？ 第50回日本人類学民族学連合大会 (1996年10月、佐賀)
- 2) 田中伊知郎 (1996) ニホンザルにおけるシラミ卵処理技術の変化 (なぜ集中して起こったのか)。第12回日本霊長類学会 (1996年6月、大阪) 霊長類研究 12:286.
- 3) 松室三重・室山泰之・田代靖子・山海直・吉田高志 (1996) ニホンザルの糞便中性ステロイドホルモンの測定。第12回日本霊長類学会 (1996年6月、大阪) 霊長類研究 12:260.
- 4) 室山泰之 (1996) ニホンザルの毛づくろいにおける意志決定。第12回日本霊長類学会 (1996年6月、大阪) 霊長類研究 12:285.
- 5) 山極寿一 (1996) 食とホミニゼーション。第4回日本行動科学学会大会 (1996年9月、東京)：シンポジウム「食：人間理解の新たな視点」。

#### 社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃

#### 研究概要

A) 中央アフリカ、ザイール森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・田代靖子<sup>1)</sup>

ザイール共和国ジョル地区ルオ学術保護区のワンバ森林において、E1集団の社会変動とE2集団の遊動と生息地における食物変動の研究を行った。また、同保護区のイロンゴ森林において、ボノボの密度センサスを行った。

B) 東アフリカ、タンザニアにおける野生チンパンジーの研究

(1) マラガラシ北岸における野生チンパンジーの研究

加納隆至